

炭酸ガスを午前、午後に施用すると、イチゴの収量が増え甘くなります！

【研究のポイント】

イチゴの収量と品質を上げるには、肥料、水、温度、炭酸ガスをバランスよく供給するなど、ハウス内環境を整えて、光合成を促すことが重要です。  
そこで、当チームでは、炭酸ガスの施用方法の違いによる収量と品質への影響を検討しました。



ハウスでのイチゴ栽培の様子(現地)

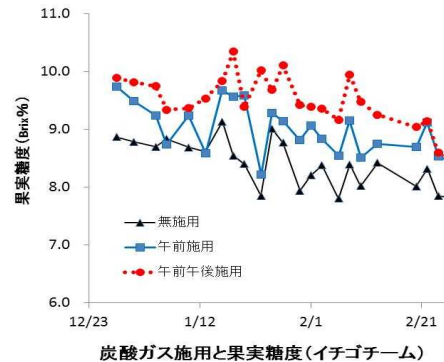
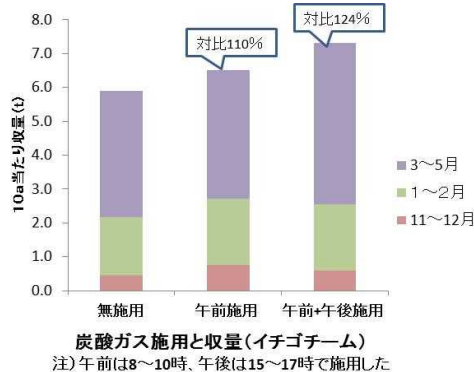


灯油燃焼式炭酸ガス発生装置の1例)

<成果のポイント>

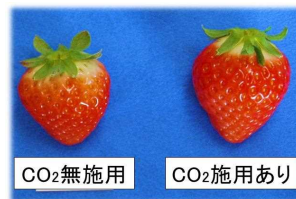
- ①イチゴハウス内では冬場に炭酸ガス濃度が低くなっています。
- ②炭酸ガスの供給を午前(8時~10時)のみでなく午後(15時~17時)にも行うことで、イチゴの果実肥大がアップし、増収につながることがわかりました。
- ③炭酸ガスを供給することで厳寒期のイチゴの果実糖度が高くなることがわかりました。

【研究の成果】



<生産現場への普及>

生産現場の炭酸ガス濃度への意識が高まり炭酸ガス濃度を含めた環境モニタリング装置の導入が進んでいます。  
それとともに炭酸ガスを午前に加えて午後にも施用する農家も増加しています。



イチゴのツヤも良くなります。

【生産者の声】

いちごづくりではハウス内環境を整えることがとても重要です。炭酸ガス施用などで、おいしいいちごづくりを行い、増収を図っていきたい。  
(アクトいちごファーム 小野聖一朗氏)



【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 農業研究部 イチゴチーム  
TEL: 0974-28-2079  
住所: 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8